



Annual Report 2025

2025年 年次報告書



SPSグループは SDG s に取り組む
企業様・行政様と共に活動を推進します。

私たちの考え

SPSグループのコーポレートスローガンは「**環境と資源を守る**」です。

SPSグループは2018年に70周年を迎え、「廃棄物に対する目線を未来に。」を新たなブランドコンセプトに据えました。「廃棄物を単なる廃棄物として見ていない」「廃棄物活用の無限な可能性に賭けている」「未来の環境と資源は視点と発想から変わる」のメッセージを発信させて頂いております。2030年に向けたSDGsの活動への取り組みが、各企業・地方自治体・個人において活発化してきています。これらの背景からSPSグループでは、優れた技術やノウハウを持つパートナー企業様と一つの共同体として共存共栄していくエコシステム実現を目指し、2020年に「三友環境総合研究所」を立ち上げました。

環境領域には幅広い分野があります。当グループのお取引のある企業様は約4千社（8千事業所）になり、各業界との接点をもっています。当然、お困りごとは様々で、SPSグループは「なんとかしてあげたい」の気持ちで、あらゆる課題に全力で取り組んでいます。これらの課題解決への対応にあたってはパートナー企業様と一緒に取り組むことで解決した事例が多数あります。このような事からも、 $1+1=2$ ではなく、 $1+1$ が10にも100にもなる取り組みを目指します。「**新しい価値を創造する**」取り組みをパートナー企業様と一緒に実現してまいります。

2025年 活動タイムライン

1月

マイコプロテイン製造のための原料調査を受託

バイオ技術等の実証を通じた新しい食品、飼料の開発・商用確立を目的とした原料調査を実施しました。

2月

「中堅・中核企業×ベンチャー・スタートアップ ～ネットワーキング&ピッチ～」へ参加

経済産業省 令和6年度「中堅・中核企業の経営力強化支援事業」の一環として、事業者向けの交流会企画へ参加、SPSグループの取り組みを紹介しました。

3月

「ファーマーズ&キッズフェスタ2025」 へ出展

>>> 詳しくは[こちら](#)



環境省「令和6年度

食品廃棄物ゼロエリアモデル事業」報告会

2024年に採択されたモデル事業の報告会を実施しました。

>>> 詳しくは[こちら](#)

厚真町・安平町 資源循環（ごみ分別）アプリ導入

当社が開発する「資源循環（ごみ分別）アプリ」を導入しました。

>>> 詳しくは[こちら](#)

4月

千葉農業大学校と田植えへ参加

>>> 詳しくは[こちら](#)

5月

ユニバーサルスタジオジャパン ヤクルト容器回収

パーク来場者へ「資源循環活動」にご参加いただきました。

>>> 詳しくは[こちら](#)

6月

青山学院大学 社会情報学部 課題解決型授業

SPSグループが抱える「資源循環（ごみ分別）アプリ」をテーマに学生へ課題を出し、解決提案を受ける授業を7月迄行いました。

>>> 詳しくは[こちら](#)



7月

環境省「令和6年度補正予算 消費者の 行動変容等による家庭系食品ロスの 削減推進モデル事業」に採択

弊社のアプリを用いた取り組みが環境省モデル事業に採択されました。

>>> 詳しくは[こちら](#)

厚真町・安平町多言語版ごみ分別アプリ導入

多言語版ごみ分別アプリをリリースしました。

>>> 詳しくは[こちら](#)

相模原市立橋本小学校 「SDG s 授業」

相模原市立橋本小学校へ「SDGs」「相模原市のごみ処理状況」「ヤクルト容器」について学びました。

>>> 詳しくは[こちら](#)



株式会社帝国ホテル コーヒー豆かす リサイクルループ認定

>>> 詳しくは[こちら](#)

8月

環境社会報告書「E-VISION2025」発刊

2025年度 環境社会報告書「E-VISION」を発刊しました。
>>> 詳しくは[こちら](#)



9月

東金市 ごみ減量プログラムスタート

環境省モデル事業の取り組みの一環で千葉県東金市にて「ごみ減量プログラム」がスタートしました。>>> 詳しくは[こちら](#)

相模原市立橋本小学校 「回収・点検」

各家庭からヤクルト容器を回収しました。
回収日には、ヤクルトマンも応援に駆け付けました。

>>> 詳しくは[こちら](#)



麻布大学 生命・環境学部と地域の 炭窯再生とコーヒー豆かす炭化実験

『コーヒー豆かすの炭化』実験を行いました。

>>> 詳しくは[こちら](#)



10月

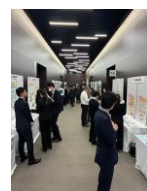
石狩市 粗大ごみ受付管理システム導入

北海道石狩市で「粗大ごみ受付管理システム（ソダイシス）」を導入しました。
>>> 詳しくは[こちら](#)

食品ロス削減全国大会in千代田

千代田区で開催された食品ロス削減全国大会へ、当社取り組みの展示を行いました。

>>> 詳しくは[こちら](#)



11月

GTF グリーンチャレンジデー 2025 in 新宿御苑 出展

>>> 詳しくは[こちら](#)



東金市産業祭 出展

千葉県東金市で開催されるイベントで当社の取り組み紹介を行いました。>>> 詳しくは[こちら](#)



相模原SDGs EXPO 出展

橋本小学校・ヤクルト本社様と共に、橋本小学校との取り組み内容の紹介展示しました。

>>> 詳しくは[こちら](#)



12月

相模原市立橋本小学校 「年間取り組みまとめ授業」

>>> 詳しくは[こちら](#)



2025年 活動概要

SPSグループ トピック 10

1. 横浜新工場「横浜BAY工場プロジェクト」 順調に計画推進中

横浜市金沢区福浦二丁目にて計画中の日量98トンの焼却施設「横浜BAY工場プロジェクト」は計画通りに進行中です。
そして経済産業省の補助事業でもある「中堅・中小企業の賃上げに向けた省力化等の大規模成長投資補助金」の交付決定を受けました。
横浜BAY工場は2027年完成 2028年稼働を目指して進めてまいります。



2. コンサルティング

お客様から『困ったら三友』のキーワードから対応した特徴的な案件を紹介します。

■ PFOSへの対応

お客様の敷地内に設置している消火設備の配管一部に亀裂が生じ、PFOS（有機フッ素化合物の一種）を含む泡消火剤の一部が施設内の調整池や排水処理施設に流入する事案が発生しました。これに対し迅速に自治体や各企業様とも連携し、速やかな対応を進めました。

■ 再生利用事業計画（食品リサイクルループ）の認定取得

帝国ホテル様の新館建て替えに伴い、新館内にあった食品廃棄物の肥料化施設が使えなくなることなどからリサイクルを進めるために、コーヒー豆かすリサイクルに取り組みました。認定取得まで通常では約2年くらいかかりますが、関係者との連携から約1年での認定取得となりました。

3. 温室効果ガス削減に向けた取り組みが加速化

SPSグループとして、地球温暖化対策の重要な取り組み「温室効果ガス削減」が加速化しています。
廃棄物処理を環境負荷の少ない処理法への変更、LCAによる検証方法の導入、Scope3の算出、技術開発に向けた取り組みを進めています。

4. 新技術開発と仕組みづくり

太陽光パネルリサイクルに向けた仕組みづくりをパートナーである杉浦土木様と進めています。
東京都の住宅用太陽光パネルのリサイクル施設として指定を受けています。

5. 北海道安平町 最終処分場 工事が終了

北海道早来町の第7期最終処分場の工事がほぼ完了し、検査段階となりました。
2026年度稼働に向けて最終調整中です。

6. 環境省モデル事業に2年連続採択

2024年度（2月迄）は『コーヒー豆かすリサイクル（SAIKAI COFFEE for Office）』が「**食品廃棄物ゼロエリアモデル事業**」に採択。
2025年度（2026年1月迄）はアプリによる食品ロス削減に向けた取り組み『ごみ減量プロジェクト&タベスケ』が「**消費者の行動変容等による家庭系食品ロスの削減推進モデル事業**」に採択されました。

7. 基幹システムまもなくリリース

12年ぶりの基幹システムの更新となります。いよいよ来春のリリースに向けてユーザーテストを実施しています。
トレーサビリティ等を活用した情報管理機能を強化したシステムとなります。

8. AIの社内活用

Chat GPT、Google Gemini、Microsoft Copilotなど生成AI技術が進む中でSPSグループ内での活用が進んでいます。

- 活用事例 ①：社内勉強会による活用
- 活用事例 ②：資源循環アプリでの多言語翻訳機能での Chat GPT 活用
- 活用事例 ③：資源循環アプリの拡張機能 食品ロス削減「賞味（消費）期限管理プログラム」レシピ検索機能での Chat GPT 活用
- 活用事例 ④：技術伝承プロジェクト 焼却工場における熟練技術をAIによる伝承を進めるプロジェクトをスタート

9. 工場見学

SPSグループでは、対面での施設見学とともに三友環境総合研究所HPに掲載されている「FACTORY TOUR」にて工場見学を行っています。
対面での工場見学についても順次受け入れを行っています。

対面・WEB工場見学参加者

対面
372団体

WEB
84名

10. 第1回 e-Sports交流会 の開催

全国各拠点に参加できる社内交流会の一環として株式会社NTPセブンス様ご協力の元、「第1回 e-Sports交流会」が11月末に開催されました。
当日は、オンラインにて6拠点を繋いで、任天堂Switchの「大乱闘スマッシュブラザーズSPECIAL」を使用し、各拠点で選出された代表者2名で2対2の拠点对抗方式での開催となりました。
現地観戦だけでなく、Youtubeライブ配信も行い、熱い戦いが繰り広げられました。



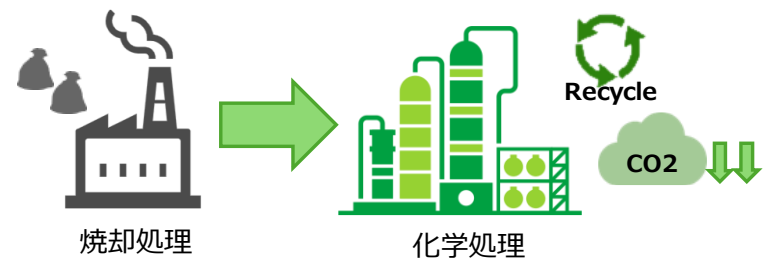
温室効果ガス削減への取り組み

取り組み①：環境負荷の少ない処理方法への転換

脱炭素社会の実現に向け、企業にはサプライチェーン全体を通じた温室効果ガス削減が求められており、廃棄物処理に伴うScope3排出量への対応も要請が増えています。

廃棄物処理に伴うCO₂排出量は処理方法によって大きく異なり、焼却処理は排出量が多い手法の一つとされています。当社では、従来焼却されていた廃棄物について、他の技術を活用した処理方法への転換を提案することで、環境負荷の低減を図っています。

これらの取り組みを通じて、廃棄物処理に起因するCO₂排出量の削減を行い、お客様のScope3排出量低減に貢献しています。



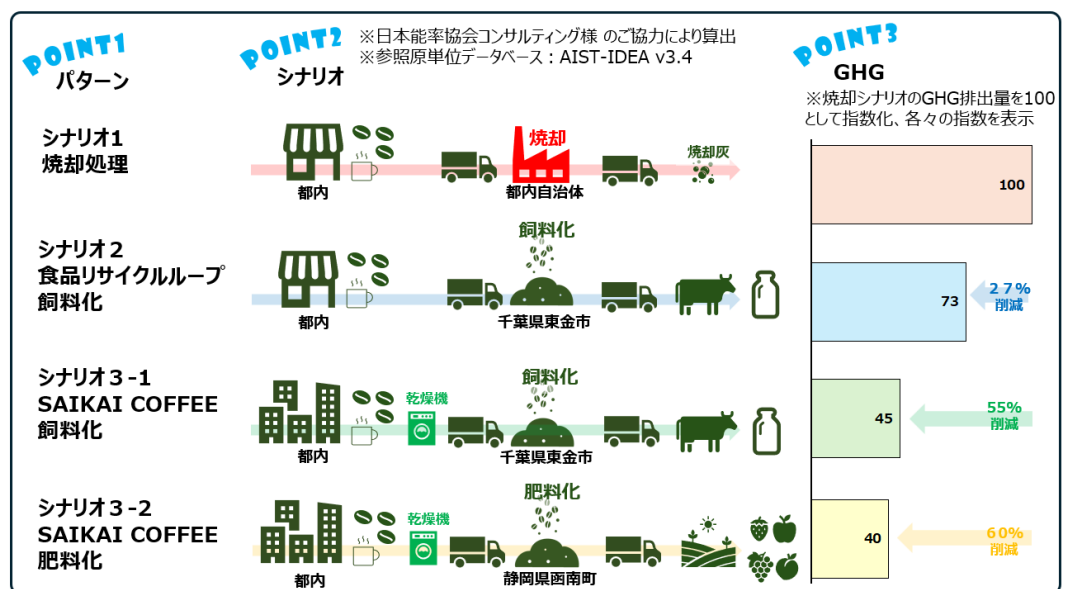
取り組み②：コーヒー豆かすリサイクルにおけるLCA評価

背景：環境省令和6年度食品廃棄物ゼロエリア創出モデル事業の一環として、コーヒー豆かすを「焼却処理」「食品リサイクルループ（飼料）」「SAIKAI COFFEE（飼料・肥料）」のパターンでLCAの算出を行い、CO₂排出量の観点からリサイクルスキームの有効性を検証致しました。

結果：焼却処理と比較すると
「SAIKAI COFFEE 肥料化」⇒60%削減
「SAIKAI COFFEE 飼料化」⇒55%削減
「食品リサイクルループ 飼料化」⇒27%削減
となりました。

ポイント：削減効果の大きい「SAIKAI COFFEE」では排出する前段で乾燥工程をお客様に実施頂きます。乾燥工程により含水率を低下させ、輸送・製造時の排出量削減や品質安定化による廃棄物発生抑制につながっています。

SAIKAI COFFEEについては[こちら](#)



取り組み③：Scope3の算出

脱炭素社会への移行が進む中、サプライチェーン全体を含めた排出量管理の重要性が高まっていることを踏まえ、Scope3算定を試行的に開始しました。近年、環境情報については、数値のみならず、その前提や背景を含めた整理が求められる傾向が強まっています。

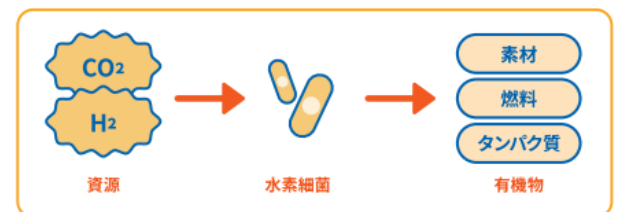
このような動向を踏まえ、当社としても自社の排出構造を把握し、事業活動と環境負荷の関係性を整理することが、取引先との円滑な情報共有や相互理解につながると考えました。Scope3算定は、その基盤となる取組の一つです。

本算定は、現時点での完成度を目的とするものではなく、今後の制度動向等を踏まえながら、段階的に精度を高めていく方針です。

取り組み④：CO₂回収・利用技術の研究開発

目的：SPSグループでは、焼却処理施設から排出される排ガス中のCO₂を、大気中に放出される前に吸収・固定、有効活用する事で、カーボンニュートラルの実現を目指しています。

内容：水素酸化細菌を活用したCO₂の回収と資源化について研究開発を進めています。自然界から新規の水素酸化細菌を採取し、CO₂吸収速度に優れた有望な菌株の探索を行うとともに、より多くのCO₂を吸収できる培養条件や副資材の使用量を抑えた効率的な培養方法について検討を進めています。今後は施設への導入を目指し、回収した菌体や培養液の有効活用・大量培養技術などの検討を行って参ります。



取り組み⑤：SUSTEA販売開始

1缶あたり約500gのCO₂排出量削減に寄与するSUSTEAの販売を開始いたしました。使用される茶葉は100%有機農法にて栽培された物を使用しており、通常の栽培と比較すると化学肥料などの使用量を減らす事ができ、温室効果ガスの排出量を抑制しています。また、アルミ缶を採用する事でプラスチックごみの削減にも貢献しています。詳しくは[こちら](#)



環境省モデル事業

【環境省「令和6年度 食品廃棄物ゼロエリアモデル事業」報告会】

食品関連事業者以外のオフィスなどから排出されるコーヒー豆かすの資源循環スキーム SAIKAI COFFEE for officeが、環境省の「令和6年度食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業等」に採択され、3月に報告会を行いました。詳しくは[こちら](#)

■SAIKAI COFFEE for Office 全体像

オフィスから出る「コーヒー豆かす」を排出者の従業員が乾燥工程を行うことで、性状が安定した、良質な肥料・飼料の原料として利用。肥料・飼料を利用した一次産業者からの生産物をオフィスへ戻すことで、**資源循環を実現**しています。



■取り組み実施から実現すること

POINT 1
食品リサイクル

これまで燃やされていた抽出後の
コーヒー豆（粉）を資源に変える

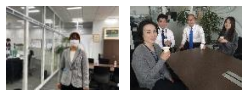
POINT 2
従業員の環境活動

環境への意識向上・オフィスから
SDGsに貢献できる

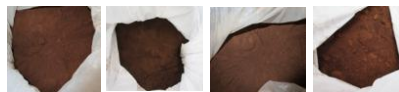
POINT 3
サステナブル

『Niji・COFFEE』から肥料・飼料を作り、野菜果物
・乳製品・加工品がSAIKAI COFFEE
活動認定商品として戻ってくる

■取り組み様子

■セミナー開催
(募集時・導入企業・学生（大学、小学校）向け)

導入時説明・セミナーを開催

■安定した性状
(異物混入やカビなどの発生は無し)

排出者の取り組み

■飼料製造



肥料・飼料製造から生産物を戻す
(農作物は来期)

■GHG負荷軽減検証

協力：日本能率協会コンサルティング
参照原単位データベース：AIST-IDEA v3.4

シナリオ1 焼却処理（都内自治体）

100

シナリオ2 食品リサイクル（都内）

73 2.7%削減

シナリオ3 SAIKAI COFFEE（都内）

45 5.5%削減

GHG負荷軽減検証

【環境省「令和6年度補正予算

消費者の行動変容等による家庭系食品ロスの削減推進モデル事業」に採択】

当社が取り組む、アプリを用いた消費者の行動変容の促進や、地域のごみ減量や食品ロスの削減を目指す取り組みが、環境省の「令和6年度補正予算 消費者の行動変容等による家庭系食品ロスの削減推進モデル事業」に採択されました。

取り組み①：地域のごみ減量や食品ロスの削減

「ごみ減量プログラム」の実施

資源循環（ごみ分別）アプリの機能拡充として自治体が行うごみ減量のためのプログラムや食品ロス削減のために賞味・消費期限プログラムをリリースしました。9月から千葉県東金市にて導入いただき、約1か月間、市役所と道の駅に説明ブースを設置し、スタッフが常駐してアプリの使い方や取り組みの背景について案内しました。

【生ごみ減量プログラム】

家庭で水切りをして、ごみの重さをアプリに登録。削減量が見える化し、ランキングで楽しみながら減量を促進しました。



【賞味期限コントロールプログラム】

食品の賞味・消費期限をアプリで管理。期限切れ防止や、登録食品からレシピ検索もできる仕組みを提供しました。



取り組み②：消費者の行動変容の促進

【タベスケ】

SPSグループの協力会社である株式会社G-Placeが開発する、「食品ロスの削減」や「環境運動への参加」を促すことを目的とした自治体主導のフードシェアリングサービスです。賞味・消費期限が近いなどの理由で売り切りたい商品のある協力店（お店）と、お得に購入したいユーザー（利用者）をタベスケを通じてマッチングします。タベスケを活用したフードシェアリングの仕組みは、全国の市区町村ごとにちなんだ愛称が付けられ、地域に根差したサービスとして現在も広がっています。



食品リサイクルに関する取り組み

スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社とスタートしたコーヒー豆かすの再生利用事業計画（食品リサイクルループ）の取り組みが進化しています。SPSグループが食品リサイクルループ構築に向けたコンサルティングを行い、国へ申請を開始・準備をしている企業が複数社あります。また2023年より地域限定で開始したSAIKAI COFFEE for Office の取り組みが拡大しています。これから2025年はコーヒー豆かすの入荷量及びコーヒー豆かす飼料の出荷量は過去最大となる見通しです（11月末時点）

コーヒー豆かすリサイクル 受け入れ量拡大

スターバックス コーヒー ジャパン株式会社様、株式会社デニーズジャパン様は2025年にエリアと店舗数の拡大を行いました。株式会社デニーズジャパン様とはSBS即配サポート株式会社様と都内エリアのブロック分けからの効率的な回収スキームを構築しました。これから両社のリサイクル率向上に努めていきます。

株式会社帝国ホテル コーヒー豆かすリサイクルループ認定

株式会社帝国ホテル様のコーヒー豆かすのリサイクル(飼料化)が国の認定制度『再生利用事業計画(食品リサイクルループ)』に農林水産省、環境省、厚生労働省、国土交通省の各四大臣から認定されました。



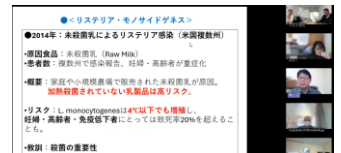
SAIKAI COFFEE for Office の取り組み拡大

食品関連事業者以外（不動産業、製造業＜食品以外＞、金融業など）でも取り組める環境活動として好評頂いています。従業員へのイベントを合わせて啓蒙活動としたり、日本にしかない取り組みとして外資系企業様の本国のレポートなどにも登場しています。



持続可能な酪農家との取り組みに向けて 農場HACCP取得に向けた研修会開催

静岡県、山梨県の酪農家の皆様および農業協同組合様と一緒に農場HACCP取得に向けた研修会を企画・実施しています。これはリサイクルループの一次産業の加工品や作物を排出者に戻すにあたり、より品質の高いものを販売するといった考えからの取り組みです。こちらには経済産業省「中核中堅企業の経営力強化支援事業」の支援から専門人材の派遣を頂いております。



Webによる研修会の様子

資源循環（ごみ分別）アプリ

資源循環アプリのサービス展開

SPSグループは自治体様向けサービスとして「資源循環アプリ」を展開しています。本アプリには、カレンダーや4種類の捨てたいごみの検索方法、資源循環を促す機能が掲載されており、日々の生活で発生するごみの排出支援を行っています。本年度は、自治体で取り組んでいる資源循環活動をアプリ内に掲載するなど新たな取り組みも行いました。新規導入自治体として新たに2自治体への導入、2022年からの千葉県東金市・東京都渋谷区、2024年導入の石狩市・木津川市・北秋田市に加え、7自治体となりました。 [詳しくはこちらをクリック（資源循環アプリ）](#)

多言語版ごみ分別アプリ導入

外国の方向けに多言語版ごみ分別アプリをリリースしました。ChatGPTを用いた、チャット形式でのごみ分別案内アプリとなっており、約80か国語で案内できます。7月には、隣接自治体における、大手メーカーの工場進出や技能実習生増加により外国人が多く居住する北海道厚真町・安平町へ導入いただきました。

粗大ごみ受付管理システム

石狩市では2025年10月より粗大ごみの受付業務の効率化と住民サービスの向上を目的として、SPSグループの協力会社である株式会社G-Placeが開発する「粗大ごみ受付管理システム（ソダイシス）」の導入・運用を開始しました。このクラウド型システム「ソダイシス」は、住民の方がスマートフォンやパソコンから24時間いつでも粗大ごみの収集申込ができるほか、収集日程の調整、品目・手数料の確認など利便性の高い機能を多数備えています。また、自治体職員にとっても、収集指示や業務状況の管理、レポート作成などがシステム化されることで、業務の効率化につながります。

2025年度導入自治体

【北海道厚真町】

3/14に導入しました。
12月現在、世帯シェア13.3%となっています。

【北海道安平町】

3/21に導入しました。
12月現在、世帯シェア6.5%となっています。



産官学・地域活動・環境活動の取り組み

「橋本小学校の環境教育」

当社（相模原本社）より、一番近い小学校 相模原市立橋本小学校への環境授業、資源循環取り組みが3年目を迎えました。本年度は7月に相模原市役所 みんなのSDGs推進課様、ヤクルト本社様、SPSグループによる「SDGs授業」からスタート。資源循環活動としてSDGs委員会が立てた今年の目標は『ヤクルト容器6,666本を回収する！』たくさん集める方法として、『全校で取り組む』『相模原市役所の職員やSPSグループにも協力を依頼すれば』と考え、夏休み明けの9月から1か月間の期間で、約7,932本（31.7kg）の回収と目標を達成しました。

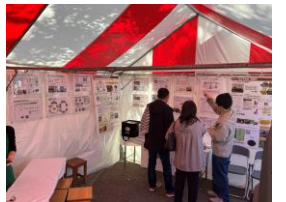
回収した容器からリサイクル品として、児童のデザインを反映したブロックカレンダーを作成、出来上がったブロックカレンダーは11月3日に実施された「相模原SDGs EXPO」にて活動紹介や抽選会のプレゼント品にもなりました。

12月には1年間のまとめ授業を実施、取り組みの振り返りや来年度への意気込みなどを発表してもらいました。



「青山学院大学 社会情報学部 の課題解決型授業」

企業からのテーマに対し、学生が主体的に解決策を提案するPBL（Project-Based Learning）形式の授業にて、SPSグループが抱える「資源循環（ごみ分別）アプリ」の課題を提示し、学生たちは地域のごみ問題やアプリの活用について調査・分析を行い、全15回の授業を通じて提案をまとめてくれました。



「千葉農業大学校との米栽培」

千葉県立農業大学校（東金市）とSPSグループによる水稻栽培の実証研究で、水稻栽培からの社会課題（収量拡大と地球温暖化）解決とビジネス化に向けた取り組みです。

千葉県の水田ではジャンボタニシ被害が拡大しています。対策として中干し期間を延長し、養分吸収に菌根菌を活用することで、メタン排出削減にもつながり、J-クレジット活用を目指します。さらに温暖化を逆手にとって、再生二期作（1回の田植えで2回収穫を粉う）に挑戦しています。

「ファーマーズ&キッズフェスタ2025」へ出展

3月1・2日に代々木公園で開催された「ファーマーズ&キッズフェスタ2025」へコーヒー豆かすリサイクルの紹介を内容として、ループを構築しているスターバックス コーヒー ジャパン 株式会社様、デニーズジャパン様、帝国ホテル様（当時構築中）、リゾートトラスト様（現在構築中）、酪農家としてKalm角山様、クレイン農協様、酪農王国オラッチェ様、リオグランデ様と協働で出展しました。

4万人の来場と大盛況イベントとなりました。



「GTF グリーンチャレンジデー 2025 in 新宿御苑 出展」

イベント後援の「いのち・ちきゅう・みらいプロジェクト実行委員会」から協力要請を受け、当社の取り組み「コーヒー豆かすリサイクル」や環境省のモデル事業となっている「生ごみ減量プログラムアプリ」を紹介しました。

「いのち・ちきゅう・みらいプロジェクト実行委員会」は当社が参加している「三千年の未来会議」や「環生塾」と環境・地域循環・人材育成・未来志向といった共通コンセプトのもとで、協力・連携の関係性をもっています。



「麻布大学 生命・環境学部と地域（相模原市緑区青根地区）の炭窯再生とコーヒー豆かす炭化実験」

麻布大学とSPSグループの共同研究として、「炭窯の再生を行い、炭を作る活動」を行っております。

この繋がりの中で新たに『コーヒー豆かすの炭化』実験を行いました。

次のステップとして炭化物のバイオ炭としての性状を評価し、土壌改良剤・J-クレジットへの活用を検討致します。



「食品ロス削減全国大会in千代田」

本年度は千代田区で開催された全国大会。消費者庁、農林水産省、環境省が共催で食品ロスの削減の取り組みの発表会です。一緒に取り組んでいるパートナー企業3社（帝国ホテル、デニーズジャパン、シマ）の出展ブースの中で当社とのコーヒー豆かすリサイクルの取り組み紹介をしていただきました。

「環境フェスタ くにたち」

国立市に中央研究所を持ち、国立市様と包括連携協定を結ばれているヤクルト本社様のブースにて環境取り組みの紹介を行いました。ブースへ来られた方には「ヤクルト」を試飲いただき、洗浄、回収を行っていただく、資源循環の体験を行い、食品ロス対策としての環境省のモデル事業となっているフードシェアリングサービス「タベスケ」のアプリ説明も行いました。

「たい肥ワークショップと東金市産業祭」 東金市・スターバックス コーヒー ジャパン株式会社・三友プラントサービスの三者間包括連携協定

道の駅の10周年イベントにて地域コミュニケーションとして取り組んでいる コーヒー豆かすからのたい肥を利用したワークショップを開催しました。詳しくはこちら ⇒ [minoriピクニックワークショップ](#) [starbucks stories](#)

また東金市産業祭において、東金市経済環境部 環境保全課様のブースでは「資源循環（ごみ分別）アプリ」の紹介と環境省のモデル事業となっているアプリを使った「生ごみ減量プログラム」「賞味・消費期限管理プログラム」の紹介。

道の駅みのりの郷&スターバックス コーヒー のブースでは、コーヒー豆かすリサイクルの紹介やワークショップを開催しました。

「相模原SDGs EXPO」

SPSグループが さがみはらSDGs パートナー企業として地域活動の紹介として「相模原SDGs EXPO」に出展、橋本小学校との取り組み内容の紹介展示を橋本小学校とヤクルト本社様と行いました。

ブースへ来られた方に「ヤクルト」を試飲いただき、洗浄、回収を行っていただく、資源循環体験も行いました。

2026年に向けて

事業内容から活動計画

商事事業 (卸売・販売企画)	商材販売	■ SDG s 関連商材の拡充 ■ カーボンニュートラルへ向けた関連商材の拡充 ■ 技術商材を持つパートナー企業の開拓と提携
	リサイクル構築	■ 食品リサイクルの循環型の仕組み構築（グループ会社 緑産との連携） ■ SAIKAI COFFEE for officeのビジネス拡大 ■ 廃プラスチックの循環型の仕組み構築（アールプラスジャパンとの連携）
	システム	■ OEMシステムの開発と販売（廃棄物トレーサビリティ・資源循環アプリ・統合ファシリティ管理） ■ 自社内 基幹システム開発と 廃棄物処理業におけるデジタル化推進 ■ 工場（焼却炉運転など）技術のAI学習による体系化 ■ 産業廃棄物データプラットフォーム構築に向けた活動開始
コンサルティング	循環型社会の実現へ向けて	■ 2050年カーボンニュートラルの実現に向けた企業様や自治体様への提案と実行 ■ 自治体への持続可能な廃棄物処理提案活動と廃棄物削減減量に向けた活動 ■ 地域と連携した活動（産官学連携）
	人材	■ 環境知識、感度向上に向けたプログラム開発 ■ 安全・衛生などIT技術を使ったプログラム開発 ■ SPSグループ内人材育成
	助成金/補助金 各種申請	■ 助成金/補助金 申請手続き支援 ■ 再生利用事業計画（食品リサイクルループ）の申請手続き業務 ■ 各種試験研究 自治体調整
新しい情報	発信・収集	■ ホームページ、メルマガ、講演会 など拡充 ■ 環境社会報告書などの定期情報発信 ■ WEB/リモート工場見学
	研究開発 イノベーション	■ アクセラレータープログラムの推進と実行 ■ 事業化に向けた Research & Development の実行 ■ 新しい技術の発掘や業務提携、出資などの検討と実行口

会社概要

会社名 株式会社 三友環境総合研究所
本社所在地 〒252-0132 神奈川県相模原市緑区橋本台1-8-14
創立 昭和49年2月18日（※令和1年12月1日 七生総業株式会社より社名変更）
代表取締役社長 小松 和史
取締役 小松 源
取締役 林 愛
執行役員サステナブル・イノベティブ・デザイン事業部長 増田 光彦
執行役員経営管理部長 原田 益至
理事 生越 正広（和光テクノサービス株式会社）
理事 平松 豊一（株式会社ユニオンサービス）
理事 渡辺 正人（SPEC株式会社）
理事 田邊 陽介（株式会社環境と開発）
アドバイザー 熊倉 良一（一般社団法人バチルス普及推進機構）
アドバイザー 加藤 英司（株式会社グローウィン・コンサルティング）

お問い合わせ

株式会社 三友環境総合研究所 事務局 増田・小石川・栗原・吉澤
【TEL】042-773-1431 【FAX】042-772-3941 【メールアドレス】info@sanyusoken.com